

各 位

共同コンピューター・タホ・ルディングス株式会社

代表取締役社長
吉村 昭一

(JASDAQ・コード 9685)

問い合わせ先

取締役

小林 勇雄

(TEL : 0776-34-3512)

平成22年3月期通期(連結)業績予想の修正及び前年同期と
平成22年3月期通期(単独)業績見込みとの差異に関するお知らせ

平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績予想について、平成21年11月13日付当社「平成22年3月期第2四半期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

また、平成22年3月期通期(単独)の業績見込みについて、前年同期と比較して差異が生じることを認識しましたので併せて下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成22年3月期 連結業績予想の修正等

(1) 通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	3,200	40	30	20	円 銭 3 94
今回修正(B)	3,207	15	16	30	5 98
増減額(B - A)	7	25	14	10	—
増減率	0.2%	62.5%	46.7%	50.0%	—
ご参考 (前期実績) 平成21年3月期	3,474	151	150	48	9.38

(2) 修正理由

当連結会計年度における我が国経済は、景気の底打ち感が見られ一部の業種に回復の兆しが見受けられるものの、企業収益や雇用情勢は悪化し、先行き不透明感から企業の設備投資や個人消費も低迷が続き、依然厳しい状況で推移しました。

そのような状況下で当社グル - プは、受注獲得に向け既存顧客の深耕や新規顧客の開拓に努めてまいりましたが、通期の業績は一部の子会社を除き概ね企業収益の悪化を背景とした情報化投資の見直しなどによる外部環境の影響が他の業種より多少遅れて影響し、役務提供型事業の短期間化による契約の見直しに伴う受注減や請負型における大型案件の減少、新規案件の凍結、先送り等が起因してグル - プ全体としては前期と比べ減収、減益となりました。

その結果、売上高は前回予想を確保できたものの32億7百万円(前年同期比7.7%減)となる見込みであります。

一方、利益面につきましては、固定費の削減や経営の効率化に努めてまいりましたが、SEの稼働率悪化が売上原価を押し上げる結果となり、営業利益は15百万円(前年同期比90.1%減)、経常利益は16百万円(前年同期比89.3%減)と大幅な減益となる見込みであります。

また、当期純利益は前期の賞与引当金の過大計上による戻入23百万円や投資有価証券売却益6百万円などにより30百万円(前年同期比37.5%減)の利益となる見込みであります。

2. 平成22年3月期単独業績見込みと前年同期の差異

(1) 通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績 (A)	129	8	7	16	円 銭 3 14
当期見込み (B)	107	0	0	14	2 80
増減額 (B - A)	22	8	7	2	—
増減率	17.1%	—	—	12.5%	—

(2) 差異の理由

当社は、平成21年7月1日付けで連結子会社であった(有)ジスネット(100%子会社)を吸収合併いたしました。

それに伴い、「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号改正平成18年12月22日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行っております。

その結果、当期の実績については特別利益(抱合せ株式消滅差益)に1千5百万円が計上されております。

また、子会社株式の評価損69百万円を計上しておりますが繰延税金資産の増加に伴う法人税等調整額が40百万円減額されております。

以上により売上高は1億7百万円、営業利益、経常利益は共に1百万円以下となり、当期純損益は14百万円の損失となる見込みであります。

なお、(有)ジスネットは100%子会社であるため当該合併に伴う前期連結業績への影響はありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表時現在の入手可能な情報に基づいた判断及び仮定を前提とした見通しであります。多分に不確定な要素を含んでおり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる結果となる可能性があります。